

2020年10月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年6月12日

上場会社名 ベルグアース株式会社 上場取引所 東
 コード番号 1383 URL <http://www.bergearth.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 一彦
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営管理部管掌 (氏名) 薬師寺 朝徳 (TEL) 0895-20-8231
 四半期報告書提出予定日 2020年6月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無 (—)
 (百万円未満切捨て)

1. 2020年10月期第2四半期の連結業績(2019年11月1日~2020年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年10月期第2四半期	2,268	7.0	△190	—	△198	—	△119	—
2019年10月期第2四半期	2,120	5.6	△59	—	△62	—	△51	—

(注) 包括利益 2020年10月期第2四半期 △93百万円(—%) 2019年10月期第2四半期 △49百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年10月期第2四半期	△94.51	—
2019年10月期第2四半期	△40.36	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年10月期第2四半期	4,581	1,231	21.9
2019年10月期	3,715	1,337	30.5

(参考) 自己資本 2020年10月期第2四半期 1,001百万円 2019年10月期 1,134百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年10月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2020年10月期	—	0.00	—	—	—
2020年10月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年10月期の連結業績予想(2019年11月1日~2020年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,490	12.4	90	23.8	95	197.7	75	—	59.1

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 一 除外 一社(社名) 一
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年10月期2Q	1,269,900株	2019年10月期	1,269,900株
② 期末自己株式数	2020年10月期2Q	247株	2019年10月期	247株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年10月期2Q	1,269,653株	2019年10月期2Q	1,269,700株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、企業の経営成績や雇用情勢が改善するなど、引き続き緩やかな回復基調で推移しておりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症が全世界で拡大したことにより、日本国内では感染防止策として、緊急事態宣言に基づく様々な措置が出されました。国内外の経済活動は大きな影響を受け、抑制されたことにより今後も、事業活動や経済への影響が懸念され、先行き不透明な状況が一層強まっております。なお、当社グループの当第2四半期連結累計期間において新型コロナウイルス感染症の拡大により、売上高には影響はありませんでしたが、経費面につきましては、生産及び作業体制の見直しや雇用調整などを行ったことにより、感染症予防対策のために費用が増加いたしました。

このような状況の中、当社グループは成長戦略として掲げる「全国農場展開」「多角化・多品目化」「グローバル化」の下、人々の食と暮らしに寄与する農業を目指し各事業を推進してまいりました。2020年3月には、国内外の農業を中心としたフードバリューチェーンに関連する企業へ投資を行うコーポレートベンチャーキャピタル「FARM to TABLE FUND投資事業有限責任組合」を設立いたしました。フードバリューチェーンは、生産から製造・加工、輸送・流通、消費に至るまでの流れを一つとしてとらえ、それぞれが連携して生産活動の効率化を高めながら商品に付加価値（バリュー）をつけていくことを目的としています。当社グループでは、単一事業の横串活動を推進していくことにより、新たな技術やサービスの導入を積極的に行い、農業を中心とした循環型の「Farm to table」を実現するための取り組みを行っております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,268,825千円と前年同四半期と比べ148,295千円(7.0%)の増収となりました。損益面につきましては、野菜苗・苗関連事業の売上が順調に推移しましたが、生産設備拡大に伴う雇用拡大、新規事業等への取り組みに伴う先行的な人材投資などによる経費が増加しました。なお、これらの増加経費につきましては、当初計画に織り込み済みであります。このような結果、営業損失190,111千円(前年同四半期は営業損失59,376千円)と前年同四半期に比べて大幅に増加いたしました。また、経常損失198,989千円(前年同四半期は経常損失62,039千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失119,993千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失51,247千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、セグメントの売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

また、当社グループは、従来より「野菜苗生産販売事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとし、報告セグメントに属さない貸し農園事業を「その他」に区分しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、貸し農園事業を「野菜苗・苗関連事業」に含め、「野菜苗・苗関連事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとして変更しております。以下の前年同期比較については、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(野菜苗・苗関連事業)

当事業部門におきましては、11～1月の閑散期の受注拡大に向けた営業推進活動により九州、東北、北海道地区の生産者や大規模菜園向けのトマト苗、3～4月の甲信越地区の需要増加によるキュウリ苗の受注拡大、2019年7月より事業を譲受けて開始した花苗育苗事業により売上が増加しました。また、春の家庭園芸の販売促進のため、全国の自社農場及びパートナー農場の苗在庫を野菜苗即納情報としてWEB上に公開する当社の専用サイト「ほうさく.ネット」の活用、無料通話、無料メールアプリ「LINE(ライン)」を利用した情報発信等を強化し、家庭菜園の販売強化を行ったことにより売上増加につながりました。その一方で、外出自粛等が続く中、イベントの中止等もありホームセンター向けの売上は減少傾向で推移した結果、売上高は2,190,227千円と前年同四半期と比べ124,898千円(6.1%)の増収となりました。損益面につきましては、2019年7月に事業開始した長野上原農場の通年稼働による、労務費、製造コストの増加、本社農場、ベルグ福島の生産設備新設及び改築による生産備品や減価償却費の増加、生産規模拡大に向けた雇用確保等を行ったことによる労務費の増加等固定費が増加した結果、セグメント利益(営業利益)は46,442千円となり、前年同四半期と比べ97,539千円(△67.7%)の減益となりました。

品目分類別の売上高は次のとおりであります。

品目分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
トマト苗	691,106	107.2
キュウリ苗	550,701	103.0
ナス苗	210,566	95.2
スイカ苗	281,904	109.4
メロン苗	228,323	106.5
ピーマン類苗 (注1)	115,032	112.8
その他 (注2)	112,592	125.3
合計	2,190,227	106.1

(注1) ピーマン類として、ピーマン・パプリカ・シシトウ・トウガラシをまとめて表示しています。

(注2) 玉ねぎ苗、葉菜苗、花苗等を含んでおります。

規格分類別の売上高は次のとおりであります。

規格分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
ポット苗 (7.5cm~15cm)	1,213,340	104.3
当社オリジナル(アースストレート苗、ヌードメイク苗、e苗シリーズ、高接ぎハイレッグ苗、ウィルスガード苗)	517,911	104.4
セル苗 (288穴~72穴)	427,331	114.6
その他	31,643	97.6
合計	2,190,227	106.1

(注) ポット苗は、ポリエチレンのポット(ポリ鉢)で育苗した一般的な苗(当社においては、主に断根接ぎ木苗にて育苗した苗)であり、ポットのサイズが大きくなると苗のサイズも大きくなります。セル苗は、小さな穴が連結した容器(セルトレー)で育苗した苗であり、穴数が増えると苗のサイズが小さくなります。

納品地域分類別の売上高は次のとおりであります。

納品地域分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
北海道・東北	394,282	110.2
関東	865,659	104.4
甲信越	194,749	121.1
東日本地域 小計	1,454,691	107.9
中部・北陸	134,252	114.3
近畿・中国	294,158	93.0
四国	103,831	108.0
九州・沖縄	203,294	109.2
西日本地域 小計	735,536	102.7
合計	2,190,227	106.1

(注) 静岡は「甲信越」に含めて表示しております。

(農業・園芸用タネ資材販売事業)

当事業部門におきましては、海外の種苗会社から優良な品種を選抜し、量販店に対して家庭園芸向けの品種提案、関連会社むさしのタネの品種を国内外での販売に向けて積極的に試験を進める等、開発・販売推進を引き続き行っておりますが、家庭園芸向けの種子売上が減少した結果、種子売上高14,582千円（前年同四半期17,090千円）となりました。一方で2019年9月よりA Iを活用した病害予測サービスとセットになったハウス栽培向けの環境モニタリング装置、新たな肥料の営業推進により売上が増加した結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高48,419千円（前年同四半期比15.8%増）となりました。また、営業活動や販売促進費用等が増加したことにより、セグメント損失（営業損失）2,227千円（前年同四半期はセグメント損失373千円）となりました。

(海外事業)

当事業部門におきましては、現在、中国山東省にある子会社にて野菜苗及び花苗の生産、鉢花(シクラメン)の生産、トマト等の青果物の生産を中心とした施設園芸、生産技術開発のための試験等を行っております。

前事業年度より中国国内向けに肥料、袋型液肥給液システムを使用した栽培システムの販売を開始しており、肥料販売が増加し売上拡大に繋がりました。また、2019年12月に業務提携を開始した株式会社ホープのイチゴ苗を、中国国内へ向けて輸出するための準備を開始しております。新型コロナウイルス感染症の影響により中国国内等で営業、マーケティング活動が制限されておりますが、引き続き、中国での育苗事業を中心として新たな事業基盤となるために、海外での事業拡大に向けて、生産設備や育苗の技術開発並びに農業関連市場の調査等を積極的に行ってまいります。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高30,178千円（前年同四半期比125.7%増）、損益面につきましては、海外事業推進に向けての人員増加等により販売費及び一般管理費が増加した結果、セグメント損失（営業損失）26,650千円（前年同四半期はセグメント損失21,410千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産の合計は、前連結会計年度末と比べ866,206千円(23.3%)増加の4,581,995千円となりました。これは、受取手形及び売掛金の増加417,699千円、仕掛品の増加89,705千円、有形固定資産取得による増加282,242千円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債の合計は、前連結会計年度末と比べ972,726千円(40.9%)増加の3,350,839千円となりました。これは、支払手形及び買掛金の増加285,832千円、短期借入金の増加250,000千円、長期借入金の増加237,224千円、未払金の増加159,186千円等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産の合計は、前連結会計年度末と比べ106,520千円(8.0%)減少の1,231,155千円となりました。これは、剰余金の配当及び親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症が全世界で拡大したことにより、国内外の経済活動は大きな影響を受け、先行き不透明な状況が一層強まっておりますが、現時点では、当社グループの事業に大きな影響はございません。

当第2四半期連結累計期間の業績は概ね予定通りに推移しております。そのため、連結業績予想については、2019年12月13日の開示時点から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	489,299	315,498
受取手形及び売掛金	855,512	1,273,212
電子記録債権	173,628	221,256
商品及び製品	10,473	14,142
仕掛品	70,045	159,751
原材料及び貯蔵品	126,598	194,730
その他	58,503	98,237
貸倒引当金	△2,086	△2,110
流動資産合計	1,781,975	2,274,718
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,007,276	1,284,152
機械及び装置（純額）	190,739	180,386
土地	512,894	512,894
その他（純額）	30,427	46,147
有形固定資産合計	1,741,338	2,023,580
無形固定資産	40,185	40,942
投資その他の資産	152,289	242,753
固定資産合計	1,933,813	2,307,276
資産合計	3,715,788	4,581,995

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	301,588	587,420
電子記録債務	249,039	224,010
短期借入金	400,000	650,000
1年内返済予定の長期借入金	265,919	309,478
未払金	155,905	315,091
未払法人税等	19,758	8,885
賞与引当金	54,312	52,709
その他	80,328	72,452
流動負債合計	1,526,852	2,220,048
固定負債		
長期借入金	688,865	926,090
資産除去債務	76,671	92,721
その他	85,723	111,979
固定負債合計	851,260	1,130,791
負債合計	2,378,112	3,350,839
純資産の部		
株主資本		
資本金	331,494	331,494
資本剰余金	245,674	245,674
利益剰余金	558,430	425,739
自己株式	△398	△398
株主資本合計	1,135,200	1,002,510
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△279	△504
為替換算調整勘定	△63	△215
その他の包括利益累計額合計	△342	△720
新株予約権	554	554
非支配株主持分	202,263	228,810
純資産合計	1,337,675	1,231,155
負債純資産合計	3,715,788	4,581,995

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年4月30日)
売上高	2,120,529	2,268,825
売上原価	1,601,055	1,795,994
売上総利益	519,474	472,830
販売費及び一般管理費	578,850	662,941
営業損失(△)	△59,376	△190,111
営業外収益		
受取利息	15	2
受取配当金	643	72
受取手数料	4,108	1,990
補助金収入	3,729	601
その他	2,215	1,337
営業外収益合計	10,712	4,004
営業外費用		
支払利息	1,979	2,747
持分法による投資損失	10,652	9,858
その他	743	275
営業外費用合計	13,375	12,882
経常損失(△)	△62,039	△198,989
特別利益		
補助金収入	-	78,850
その他	-	699
特別利益合計	-	79,549
特別損失		
固定資産除却損	286	0
特別損失合計	286	0
税金等調整前四半期純損失(△)	△62,326	△119,439
法人税、住民税及び事業税	3,627	2,059
法人税等調整額	△16,361	△28,052
法人税等合計	△12,733	△25,993
四半期純損失(△)	△49,593	△93,446
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,654	26,547
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△51,247	△119,993

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
四半期純損失(△)	△49,593	△93,446
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△367	△224
為替換算調整勘定	73	△152
その他の包括利益合計	△293	△377
四半期包括利益	△49,887	△93,823
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△51,541	△120,371
非支配株主に係る四半期包括利益	1,654	26,547

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△62,326	△119,439
減価償却費	85,508	90,325
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△337	24
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△5,859	△1,603
受取利息及び受取配当金	△658	△74
補助金収入	△3,729	△79,451
支払利息	1,979	2,747
持分法による投資損益 (△は益)	10,652	9,858
固定資産除却損	286	0
売上債権の増減額 (△は増加)	△428,263	△465,328
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△146,423	△160,302
仕入債務の増減額 (△は減少)	254,014	260,803
未払金の増減額 (△は減少)	159,661	155,325
未収消費税等の増減額 (△は増加)	-	△18,655
その他	△12,553	△35,254
小計	△148,048	△361,023
利息及び配当金の受取額	658	74
利息の支払額	△2,224	△2,754
補助金の受取額	3,729	79,451
法人税等の支払額	△23,119	△13,074
その他	-	693
営業活動によるキャッシュ・フロー	△169,002	△296,634
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,200	△1,600
有形固定資産の取得による支出	△46,926	△353,359
無形固定資産の取得による支出	△2,424	△688
投資有価証券の取得による支出	△550	△550
短期貸付けによる支出	△20,000	△10,000
短期貸付金の回収による収入	20,000	-
関係会社株式の取得による支出	△37,022	△1,000
関係会社出資金の払込による支出	-	△24,900
保険積立金の積立による支出	△2,980	△3,264
その他	△115	21
投資活動によるキャッシュ・フロー	△91,218	△395,340

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	200,000	300,000
短期借入金の返済による支出	△100,000	△50,000
長期借入れによる収入	300,000	420,000
長期借入金の返済による支出	△116,173	△139,216
配当金の支払額	△12,147	△12,210
その他	△802	△247
財務活動によるキャッシュ・フロー	270,876	518,325
現金及び現金同等物に係る換算差額	73	△152
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	10,728	△173,801
現金及び現金同等物の期首残高	508,068	489,299
現金及び現金同等物の四半期末残高	518,797	315,498

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	野菜苗・苗関 連事業	農業・園芸用 タネ資材販売 事業	海外事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,065,329	41,828	13,372	2,120,529	—	2,120,529
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	5,793	5,793	△5,793	—
計	2,065,329	41,828	19,165	2,126,323	△5,793	2,120,529
セグメント利益又は損 失(△)	143,981	△373	△21,410	122,197	△181,573	△59,376

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額 △181,573千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年4月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	野菜苗・苗関 連事業	農業・園芸用 タネ資材販売 事業	海外事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,190,227	48,419	30,178	2,268,825	—	2,268,825
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	3,610	3,610	△3,610	—
計	2,190,227	48,419	33,789	2,272,436	△3,610	2,268,825
セグメント利益又は損 失(△)	46,442	△2,227	△26,650	17,563	△207,675	△190,111

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△207,675千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

「野菜苗生産販売事業」は、「野菜苗・苗関連事業」に名称変更しております。

また、当社グループは、従来より「野菜苗生産販売事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとし、報告セグメントに属さない貸し農園事業を「その他」に区分しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、貸し農園事業を「野菜苗・苗関連事業」に含め、「野菜苗・苗関連事業」「農業・園芸用タネ資材販売事業」「海外事業」を報告セグメントとして変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントの名称及びセグメント区分に基づき記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。